

# 小中の円滑な接続を図るために —カリキュラムと指導の工夫—

喜多容子 (KITA Yoko)  
鳴門教育大学  
福井英子 (FUKUI Hideko),  
鳴門市第二中学校

## 要約

学習指導要領が改訂となり、小学校では平成 32 年度から 5・6 年生に外国語科が本格的に導入される。小学校で教科としての英語を学んでくる生徒を中学校で迎えるにあたり、小中の円滑な接続を図ることがますます重要であると考えられる。これに先駆けて、本校区では、平成 25 年度より文部科学省から「研究開発学校」の指定を受け、「豊かな英語力を育成する小中一貫の外国語教育」の実践研究に取り組んできた。

本報告は、5 年間の実践研究において取り組んだ小中の円滑な接続を図るための指導の工夫についてまとめたものである。特に中学校入門時における本校独自のスタートカリキュラム開発と教育実践についてその詳細を報告するとともに、今後の小中連携について見えてきた課題についても示唆するものである。

(キーワード : 小中連携, スタートカリキュラム, 小学校外国語科)

## 1. はじめに

学習指導要領が全面改訂され、外国語学習の充実が重要視され、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、話し手・読み手・書き手・聞き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が求められるようになった(文部科学省, 2017)。小学校外国語活動において児童の学習意欲が高まるなど各学校段階での指導を通じた学習成果が認められるものの、その後は、それまでの学習内容を発展的に生かすことができているなど、学校段階間の接続の不十分さなども指摘されている。

鳴門市第二中学校校区では、平成 25 年度から文部科学省指定「研究開発授業」を受け、小中一貫の外国語教育の研究に取り組んできた。校区の二小学校では、「外国語活動」と「外国語科」を実施しており、平成 28 年度までは高学年の外国語科の授業に中学校外国語コーディネーターがティームティーチングの形で参加してきた。

ここでは、小学校外国語学習の実態を踏まえた小中の円滑な接続を図るための指導の工夫、特に中学校入門時のスタートカリキュラムと効果的な小中連携についての授業実践を報告する。また、実践の中で見えてきた課題について示唆し、今後の小中連携について配慮すべき点について提案したいと考える。

## 2. 校区小学校における外国語学習の実態

### (1) 指導体制

小学校5・6年生（林崎小112名、里浦小55名）において中学校コーディネーターが、週1回授業に参加し、その専門性を、授業中における英語の指導や教材作成等に生かした。同コーディネーターは、中学校において1年生の英語科を担当し小中連携を進めてきた。小学校1学年から6学年までの指導体制は次のように設定されている。

表1 小学校外国語学習指導体制

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6
	英語活動(年間8時間)		外国語活動(年間35時間)		外国語科	
指導体制	学級担任, ALT, (小コーディネーター)		学級担任, ALT, (小コーディネーター)		学級担任 6年担当教員, ALT (小コーディネーター) (中コーディネーター 中学校英語教員)	

注) 小・中コーディネーターは、それぞれ平成29年3月31日まで平成29年度は、小・中とも外国語コーディネーター不在

### (2) 外国語科と外国語活動の活動状況

本校区の二小学校における外国語活動・外国語科の実施状況は次のようになっている。

表2 外国語学習時数

外国語活動	小学校外国語科	中学校入学年度
35時間(4年生で実施)	120時間(5・6年生で実施)	H29年度入学中学1年生 (現中学1年生)
35時間(5年生で実施)	70時間(6年生で実施)	H28年度入学中学1年生
35時間(5年生で実施)	50時間(6年生で実施)	H27年度入学中学1年生

小学校の外国語科は、外国語活動と中学校の英語科をつなぐ期間として考えられ、他教科や総合的な学習の時間との連携を図った教材や指導内容となっている。従来の「話すこと」「聞くこと」に加えて、文字学習が導入されているが、アルファベットの読み書きや活動内で扱う初歩的な語や文を読んだり書き写したりすることを主としている。小学校では、中学校のようなスキル指導ではなく、あくまでも「文字に親しませる」ということに重点をおき、時間や場所を超えて伝わることができる「文字のよさ・大切さ」を実感できる授業を展開している。チームティーチングで共に授業を行った小学校学級担任は、「文字にこころをのせて伝える」ということを常に心がけていた。児童が「もっと読んでみたい、書いてみたい」という情緒面をしっかりと育てることに、小学校での文字指導の意義があると考えた指導となっている。

### 3. 外国語学習・外国語科を経験してきた生徒の実態

#### (1) 外国語学習における活動状況

平成 28 年度以降の中学 1 年生に対して実施した授業を前年度のそれと比較すると、次のような違いがあげられる。平成 27 年度入学の 1 年生に対しては、小学校 6 年次において教科としての英語を 50 時間施行し、単元を限定して文字を読んだり書いたりする活動を行った。平成 28 年度入学の 1 年生に対しては、小学校 6 年次において教科としての英語を 70 時間実施し、年間を通じ各単元の中において文字を読んだり書いたりする経験を含めた体験的な活動を行った。平成 29 年度入学の 1 年生に対しては、小学校 5・6 年次において教科としての英語を 120 時間実施し（表 2 参照）、2 年間で各単元において読んだり書いたりする経験を含めた体験的な活動を行った。

#### (2) 小学校で外国語学習及び外国語科を体験してきた生徒の変容

- ・英語でのコミュニケーションに対する積極性が高く、ペアやグループでの活動に慣れている。慣れ親しんだ言語表現を巧みに使い、コミュニケーションを続けようとする態度が育っている（授業観察）。

- ・リスニング・スピーキング力が向上している（授業観察）。リスニング力向上に関しては、「英語能力判定テスト」の経年比較による結果として顕著に表れている（開始時英検 5 級レベル 45.9%，最終年度英検 5 級レベル 81.4%）。生徒は、分からない単語があっても全体として捉え内容を推測する力、言葉の壁があるため 100%完璧には理解できないという曖昧さに耐えうる力、そして限られた語彙や表現であっても積極的に英語で伝えようとする力をつけてきていることが 5 年間の授業観察からうかがえる。

- ・アルファベットを書くことに対する抵抗が少なくなり、同時に、読むこと・書くことへの関心が高まっている（授業観察・ワークシート・リフレクションシート）。これは、小学校で「文字に親しませる」活動を導入したことによる効果と思われる。

上記の生徒の変容に関する内容は、授業観察、英語能力判定テスト、リフレクションシート等を総合的に考察した結果に基づくものである。

### 4. 研究内容

小学校外国語学習の実態を踏まえた小中の円滑な接続を図るためのカリキュラムと指導の工夫について、特に中学校入門時のスタートカリキュラムと効果的な小中連携の在り方について探ることを目的とし、本研究を実施した。

#### (1) 小・中 9 年間の学びがつながるカリキュラムの作成

小・中学校教員が協力して小・中一貫の 9 年間のカリキュラムを作成することは、学びの連続性や単元の系統性を意識し、活動内容や単元構成について深く考える機会となる。

#### (2) 小学校外国語科での学びを中学校英語科へとつなげるスタートカリキュラムの作成

教科としての外国語の指導を受けた生徒を中学校に迎えるにあたり、入学当初に扱う指導内容の精選を図り独自のスタートカリキュラムを作成する必要がある。小学校外国

語科で培ってきたコミュニケーション能力の基礎や体験的に理解して深めてきた言語材料を大切にしつつ、中学校英語科へのスムーズな接続を目指すプログラムへと改善していくことが重要である。

(3) 中学校入門時における指導の工夫

小学校での多様な学習形態を発展させると共に、小学校で活用したチャンツ・歌・アクティビティ・教材・教具等を使用し指導の工夫に努める。学習内容は、小学校で学習した題材・語彙・言語表現を生かしたものにすることが、読むこと・書くことへの興味・関心の高まりを生かした活動を取り入れることに配慮する。

(4) 交流活動や作品を通しての小中のつながり

小・中合同外国語学習や小・中学生が外国語科で作成した作品の交流を行うことにより、それぞれの学びがつながることを実感させる機会となる。

5. 研究の実際

(1) 小・中9年間の学びがつながるカリキュラムの作成

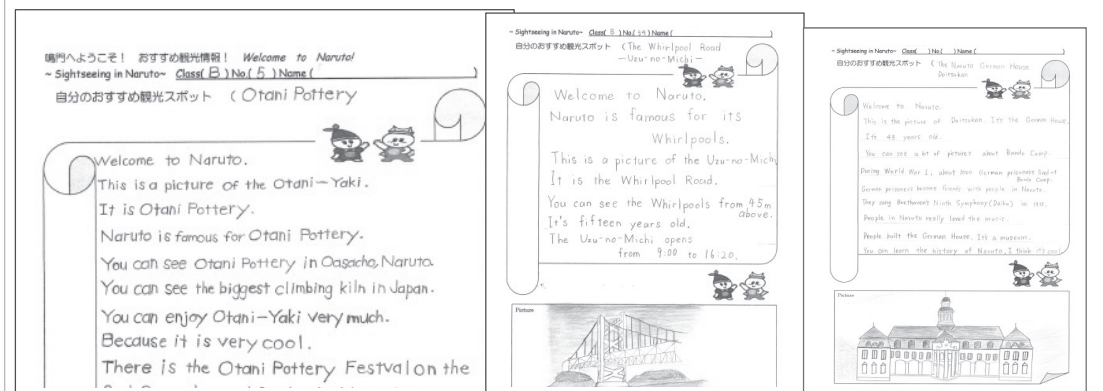
小・中一貫の年間指導計画を作成したうえで、小学校からの学びのつながりや系統性を意識した単元を導入し、中学校3年間のカリキュラムも再編成した(資料1)。一例として、小学校外国語科での学校や地域のよさに気づく単元「夢の町にようこそ」や「お気に入りの場所を紹介しよう」「地域のよさを伝えるおすすめセットを作ろう」を受けて、

資料1 【小・中一貫の年間指導計画】

年間の指導計画 (鶴岡市 林崎小・里浦小・第二中学校)		接続期Ⅰ ~つなげる~		接続期Ⅱ ~広げる~		充実期 ~深める~		
英語活動		外国語活動		英語科		英語科		
小1 [6]	小2 [8]	小3 [35]	小4 [35]	小5 [70]	小6 [70]	中1 [140]	中2 [140]	中3 [140]
4月		どうぞよろしくⅢ Hello, I'm ~ Nice to meet you.	どうぞよろしくⅣ This is my ~ 家族	どうぞよろしくⅤ いよいよ通学Ⅰ Here you are. 世界のあいさつ	どうぞよろしくⅥ いよいよ通学Ⅱ Me too. How about you? I live in~	中学校へようこそ オリエンテーション スタートカリキュラム	どうぞよろしくⅦ Program1 Did you enjoy your vacation? W1 日記を書いて、 自分の思い出を話そうⅡ	Review 自分の体験を伝えよう Program1-2 Mt. Myoko is visited by many people. Have you ever been to Mt. Myoko?
5月	どうぞよろしくⅠ あいさつ	どうぞよろしくⅡ あいさつ	好きな曜日を教えて I like Friday. 曜日	自分の名刺を作ろう アルファベットの書きか 手作りカードで遊ぼう アルファベット 既習語彙、表現	自分の名刺を作ろう アルファベットの書きか	どうぞよろしくⅧ Unit 1 I'm Saki. You are Ellen. Are you from New York?	ワクワク旅行計画を立てよう Program2 I'm going to Okinawa with my family. L1&2 明日の天気はどうですか?	自分の意見を表せよう 環境問題・命の大切さについて Program3-4 It's important for us to clean our city.
6月	でであそぼう 色	やさしいが どれだよ 言葉	いろいろなものを 数えよう How many? 数(1-20)	数で遊びよう What number is this? 数(1-11)	わたしたちの学校を紹介しよう This is my school. 教室 遊戯	わたしたちの学校紹介Ⅰ Unit 2 He is my friend.	自分の考えを言えるようにしよう Program3 I think it's nice. S3 友達を誘おう・お誘いしよう	インタビューをしよう MPT オリジナル教材 職場に働いている外国人に インタビューをしよう
7月	くだもの 大きさ くだもの 体の部位	体があそぼう 色	アルファベットと なにかよⅠ アルファベット (大文字)	好きなものをお しよ What sport do you like? スポーツ 食べ物	日本国旗をプレゼント しよう アルファベット What's 'apple' in Japanese? アルファベット	お気に入りの一日を紹介しよう What time do you get up? 時刻 生活	ホームパーティをしよう Unit 4 I want two lemons. Take a doggy bag.	対話をつなげよう MP4 Me too. I think Nanto is a beautiful city. オリジナル教材 オリジナル4コマ漫画を作ろう
9月	スポーツ大 すき スポーツ	好きなものを伝えよう I like apples. 果物 スポーツ	アルファベットと なにかよⅡ アルファベット (大文字・小文字)	「夢の時間」を作ろう I study Japanese. 教科	世界を旅しよう I want to go to Italy. 国名 世界遺産	オリジナルプログラム 観光マップを作ろうⅠ Welcome to Nanto!	分りやすい説明しよう Program5 There are nice sightseeing places in Nanto. S6 道案内をしよう オリジナル教材 職場の観光ガイドを作ろう	伝統文化を紹介しよう Program7-8 A Asanuma is a toy enjoyed by both children and adults.
10月	数であそぼう 数	虫となかよし 昆虫	アルファベットと なにかよⅢ アルファベット (小文字)	「夢の時間」を作ろう Do you have a Tablet? 衣服	日本のよさを伝えよう Can I help you? 日本文化	友誼や家族について伝えよう Unit 6 My brother lives in Australia. 自分のヒーローについて伝えよう My Hero 2	夢を語ろう Program6-7 I want to be a doctor. I want to help sick people. 夢 2015 MPT オリジナル教材 高校生におくるどじろスターを作ろう これが私の夢	留学生に日本文化や職場の観光地を 紹介しよう
11月	動物となかよし 動物	形であそぼう 形	アルファベットと なにかよⅣ アルファベット (小文字)	できることを紹介しよう I can cook. 動作 スポーツ	お気に入りのものを My vacuum 身の回りもの 形容詞	自分について 説明したり、尋ねたりしよう Unit 7 Who is he? Unit 8 Do you know him? 学校を紹介するウェブサイトを作ろう	夢を語ろう Program9-10 I like Nanto better than any other city.	自分の意見を詳しく伝えよう Program7-8 おもしろい動物は誰だ Awo odori is the special dance which we can see in August.
12月	おもしろいもの おもしろい 食べ物	日本の冬を伝えよう Let's play Karuta! 顔・体の部位 方向	アルファベットと なにかよⅤ アルファベット (小文字)	大団円を作ろう What is your birthday? 行事 月 序数	大団円を作ろう Excuse me. 質問 指さす	今していることを伝えよう Unit 9 I am taking a video. What are you doing?	好きなものランキングを作ろうⅡ I like Nanto better than any other city.	自分の夢を語ろう Program10 Education First/Media's Story 有名な人の名言
1月	今日の天気 天気	今何時?みんなで遊ぼう 時刻	文壇賞を伝えよう This is for you. 文房具	日本のスポーツを伝えよう Let's go to Tokyo Olympic 場	日本のスポーツを伝えよう It's famous for Usada! 国名 有名なもの	Presentation1 1日の生活を伝えよう できることを伝えよう Unit 10 Can you climb Mt. Fuji? When can you climb Mt. Fuji? 許可を求めたり、依頼したりしよう	自分の考えをまとめよう W&S 観光案内や対談記	自己PRをしよう SP オリジナル教材・ビデオメーカー 8年間がんばった事・場所を紹介しよう 休職を語り、思い出の日の母校の すばらしさを留学生に発信しよう
2月	ゲーム大会 しよう まとも	カルタ大会 しよう まとも	動物のイタズラを しよう Who am I? 動物	クイズ大会をしよう What's this? 形 動物	ランチメニューを作ろう What would you like?	オリジナルプログラム Presentation2 1日の生活を伝えよう 二年の思い出を語ろう Unit 11 We presented best. We got the trophy. 思い出の行事について発表しよう	オリジナル教材を作ろう Program4 Elgo Rabago オリジナル教材を作ろう Program12 Her Dream Came True オリジナル教材 世界に一部のオリジナルの絵本	旅行先から書きよう ER Aiko Twenty Years Mother Teresa 絵本を通して物語を伝えてみよう ALITに占いのメッセージを書こう
3月				クイズ大会をしよう Who am I? 動物	新年の挨拶をしよう Hello! My new life! 学校の行事			

1年生では「オリジナル教材、観光マップをつくろう」を、2・3年生にも同様の単元を設定し、実施した（資料2）。

資料2 【オリジナル教材～鳴門観光マップを作ろう～】 1年生の作品



(2) 小学校外国語科での学びを中学校英語科へとつなげるスタートカリキュラムの作成

① スタートカリキュラム作成上の留意点

小学校で学習した題材・語彙・言語表現を生かし、中学校英語科教科書の Unit 0 & 1 の学習内容と絡めたものとする（資料3）。生徒の実態にあわせ、毎年適時、修正を加えることとする。

資料3 【スタートカリキュラム指導計画】 （一部抜粋）

時期	単元名	観点	到達目標	主な学習内容
1	Starting Program① オリエンテーション 新しい友達に自分の ことを知ってもら おう	コ	・オリエンテーションを通して学習 の仕方を知るとともに、中学校英 語への意欲を持つ。 ・小学校で慣れ親んできた言 葉や表現を思い出しなが ら、自己紹介し合う。	・英語科の授業の受け方やノートの 使い方について知る。 ・英語科では、コミュニケーション への意欲が大切なことや、ライ ティングやリスニングなどさま ざまな活動があることを知る。 ・Classroom Englishに慣れる。 ・新しい友達に自分のことを知 ってもらうために、名前や好き なこと、得意なことを入れて紹 介をする。 ・小学校で作った紹介カードも 活用しながら、ペアやグルー プで発表する。 ・友達のことをよりよく知るた めに、紹介を聞いて簡単な質 問をしたり、それに答えたり する。
1	Starting Program② ボードゲームをしよう	コ	・小学校で慣れ親んできた言 葉や表現を思い出しなが ら、文字学習への意欲を高 める。	・小学校で慣れ親んできたABC 手遊びソングを歌う。 ・小学校で慣れ親んできた表 現を使って、グループで簡 単な疑問文や命令文が書 かれたボードゲームを使っ て活動する。
1	Starting Program③ アルファベットの文 字と音をつなげて みよう 身の回りにある物 のを英語らしく言っ てみよう。	知	・アルファベットの音読みを 聞いて、書かれた英単語を 正しく選ぶ。 ・音声から単語の意味をとら え、綴りと関連させる。英 語を聞いて、正しく発音す る。	・アルファベットには、名前 読みと音読みがあることを 知り、書かれた英単語を 正しく選ぶ。 ・フォニックスアルファベ ットソングを歌う。 ・綴りが描かれた絵を見な がら、英語を聞いて、紹 介されているものを聞き 取り、ゆびさす。 ・身の回りにある英語を 聞いて、英語らしい発音 に注意して言う。
1	Starting Program④ アルファベットを書 こう (大文字)	知	・アルファベットの 大文字カードを使っ て身の回りにある英 語の表示をつくり、 大文字を正確に書 く。	・小学校で慣れ親ん できたABC手遊びソ ングを歌う。 ・アルファベットソ ングを聞きなが ら、大文字を並 べる。 ・アルファベット カードを使い、 ATMなどのよう な身近な英語 表示を作る。 ・ペンマンシッ プを使って、 大文字を正確 に書く練習を する。
2	Starting Program⑤ アルファベットを書 こう (小文字)	知	・アルファベットの 小文字カードを使 って身の回り にある英語を つくり、小文字 を正確に書く。 ・地名など簡単な 単語を書く。	・「小文字たい そう」をして 小文字の形 の違いに 気づく。 ・ペンマンシ ップを使っ て、小文字 を正確に 書く練習 をする。 ・ペンマンシ ップを使っ て、ヘボン 式で書か れた人名 や地名を なぞる。 ・自分の名前 や出身地名 をヘボン 式ローマ 字を使っ て正確に 書く練習 をする。 ・単語を書 く時のル ールを知 り、地名 など簡単 な英単語 を書く 練習を する。
	Starting Program⑥ 「友刺交換」をしよう	知	・友達に渡す英 語名刺に使用 したい単語を 調べるために、 英和・和英 辞書の使い方 を知る。	・新しい友達の ことを知り あうた めに名刺 交換を すること を知り、 自分が 名刺に 書きたい 情報を 考える。 ・英和・和 英辞書 の使い 方を知 るた めに、 友達 に渡 す英 語名 刺に 使 いた い 単 語

### (3) 中学校入門時における指導の工夫

スタートカリキュラムの指導は、小中兼務をしている中学校コーディネーターが中心となって行ってきた。(平成29年4月からは、英語主任が主となり鳴門教育大学小学校英語教育センター講師と協力し進めている。)小学校5・6年時に、外国語学習を共にし、小学校での学習内容・教材を周知している中学校外国語コーディネーターが中心となって指導を行うことにより、小学校から中学校への接続を円滑に行い、中1ギャップの解消を図る。(平成29年4月からは教職経験が最も長く小中連携を10年間経験している英語科主任が、スタートカリキュラムの指導にあっている。)

スタートカリキュラム全体を通して、以下のような指導の工夫を行った。

- ① 外国語科で多様な学習形態を取り入れていることを生かし、ペアやグループでの活動を通してインタラクションを重視した活動を展開するように配慮する。
- ② 外国語科で慣れ親しんだ表現が盛り込まれている歌やチャンツ、絵カード、ICT教材を効果的に活用し、音声・リズム・視覚教材から、小学校で学んだ言語材料を想起することができる活動を展開する(資料4)。具体的には、ABC手遊びソング、アルファベット小文字体操や“Sunday, Monday, Tuesday”など小学校で使用した体を動かす活動を各時間の導入時に活用する。

資料4 小学校で習った言語材料を想起させる活動～ボードゲーム～(2時限目)  
【ボードゲームに書かれた文字を読もうとする中学校1年生の様子】



～ボードゲームに使用した表現(抜粋)～  
外国語科で習った言語材料を系統的に配列したボードゲームを用いて(文字も含む)復習する。

- When is your birthday?  
(Hi, friends! 2 Lesson 2)  
誕生日はいつ?と聞かれて英語で答えよう。
- Can you ski? (Hi, friends! 2 Lesson 3)  
友達にスキーできる?と聞かれて英語で答えよう。
- What time do you get up?  
何時に起きるの?と聞かれて、英語で答えよう。

- ③ 相手意識や目的意識を重視し、生徒が言語(英語)を使う必然性がある場面設定をした活動を展開する。その際、小学校で大切にしてきた「心が動く活動」が展開されるように配慮する。小学校教員が唱えた「心が動く活動」とは、「やってみたい・聞いてみたい・言ってみたい・書いてみたい」などの情動を生むストーリー性のある授業が、児童の学習意欲を高め、能動的な学びを促すという考えである。
- ④ 小学校では、伝えたい思いを高めた後、書く活動に移っていたので、中学校でのスタートカリキュラムでも同様の流れで書く必要性のある活動を取り入れる。そして、その過程で、単語の書き方や文の書き方と合わせて、「英語の文を書くときのルール」について振り返りながら詳しく学ぶ機会を設け、正確かつ適切に書く活動へと繋げる。小学校外国語科での「書くこと」は、文字のよさを感じさせ、コミュニケーションの幅を広げるツールとして捉えており、無理なく楽しみながら書き写す活動を主としていたため、中学校でもそれを踏まえ、さらに正確かつ適切に「書くこと」ができる力の育成をめざしていく。7・8時限目に実施した「名刺交換!自分のオリジナルの名刺を作って交換しよう」では次のような生徒の様子が見られた(資料5)。

資料5 オリジナル名刺を作成し、交換しよう（7・8時限目）

【辞書を使って自分が書き込みたい単語を調べる様子と作品】



自分が発信したい情報を名刺に書き込むために、和英・英和辞書を使って単語や基本表現を調べる様子が見られた。例えば、「動物が好き」であることを伝えたい生徒は、小学校で「私は〇〇が好きだ。」という表現には慣れ親しんでいるが、文字として表記することは少し難しいと感じたようである。彼は、まず動物の綴りを辞書で調べ、それをすでに知っている表現"I like 〇〇."にあてはめて文として表記した。単語と単語の間隔など文を書く時のルールに従い、正確に表記しようとする姿が見られた。また、自分の好きな犬は pug だともう一文付け加える様子も見られた。オリジナル名刺交換では、名前を言いながら自分の名刺を渡し、さらに自分の好きなことや興味のあることなどを伝えていた。友達は、渡された名刺を見て、そこに書かれた英文を読んだり、単語やイラストを見たりして、相手のことについてさらに知りたい事を質問していた。例えば、「I like Mr. Degawa.」と書かれた名刺を見て、「Who?」と聞いたり、それに対する答えを"Comedian"と言ったりしていた。知っている単語を使って、様々な質問をしたり、答えたりしようとする姿が見られた。

⑤ 生徒が本時の学習を振り返り、次時への目標を持つことができるように、小学校同様に、中学校でも Reflection Sheet（振り返りシート）を作成した（資料6）。これまでの経年比較から、入門期における音声から文字への学習への円滑な接続をめざす指導の在り方が重要となっている。平成27年度からは、文字学習を経験し、「書くこと」への意欲を高めて入学してきた生徒への指導が始まっている。よって、生徒が英語学習に対して抱く思いや達成状況を、振り返りシート等をもとに、毎時間丁寧に確認することで、生徒の実態に応じた指導を行いたいと考えることによる（資料7）。

資料6 【スタートカリキュラムで使用した小学校と同じ形式の振り返りシート】

日時	今日のあてをふりかえろう	感想 楽しかったこと、学んだこと、次をやってみたいことを 日本語で書いて下さい。
⑦	【めあて】名刺交換会をしよう	名刺を書いたり、読んでみることに
	積極的にコミュニケーションを図りながら名刺交換をした。	単語や言葉が覚えられた。
	単語を書くルールが分かった。	今日の活動は積極的に名刺を交換し、質問しやすかったです。
	今日の活動は楽しかった。	



資料7 【スタートカリキュラム終了後～生徒の感想 授業について～】

- 小学校で習った、音楽（チャンツ）や 絵カードや”Hi, friends!”の画面を使ってくれたので、とても懐かしかった。「これやったことがある。」とか「知ってる。」と思う場面が何回もあった。
- 「小学校でみんなが習った表現を思い出してみよう。習った表現がつかえる。」と言ってくれたので、小学校のことを思い出しながら頑張ってみた。
- 「小学校で習ったアルファベットは、中学校では、正しく書けるようにしていこうね。」と言われたので気をつけて書こうと思った。これからもっとたくさん英語を書きたいと思った。

(4) 交流活動や作品を通しての小中のつながり

① 交流学习を通しての小中連携

校区にある2小学校の6年生が、中学校を訪問し、中学1年生とともに外国語学習に取り組んでいる。昨年度までは、6年生担任と小中外国語科コーディネーターが協力して、活動を進めてきた。今年、中学生が作った Who is she/ he? クイズに小学生がペアで答えたり、小学生が自分の作品を中学生に伝えたりする活動を行った。活動後の中学生からは、「小学校6年生は、たくさんの英語をきれいに書き写すことができてすごいなあと思いました。4月からは、自分も先輩になるので、もっともっと英語の勉強をがんばって、後輩に教えられるぐらい上手になりたいです。」などの肯定的な意見が聞かれた（資料8）。

資料8 【小中合同学習後の生徒の感想】

小中交流学習を終えて、一番に思った事は  
 「なつかしいなあ」です。6年生の時と今の自分を比べて  
 「とても成長したなあ」と我ながら実感しました。  
 これからは、さらに英語の世界へ深く入り、最終的  
 には外国人の方とも楽しく会話できるレベルまで  
 勉強を頑張りたいです。



私は小学生の子と交流学習をして、小学校の子の発音が  
 中学生みたいに上手でした。知っていて、いつも使うような  
 簡単な英語だけど、その英語の1音1音の発音が  
 とても上手でした。ミングルは私は初めてでしたけど、とても楽しかった  
 です。次でしたクイズは、2回くらいつまりましたけど、大きな声で

小学生の宝物が分かって楽しかった。  
 みんな英語の発音がよくて、しっかり相手の目を見て  
 発表していたのですごいと思った。次に入学してく  
 るのがとても楽しみです。111先輩になれるように  
 がんばりたいです。小学生の人たちはいろんな宝  
 物がある111なと思った。私はもっと宝物  
 を見つけられるようにしたいです。小学生に負け  
 ないように発音を意識したいと思いました。

小中合同英語学習

小学生がわかるようにしていないヒントを覚えて、  
 わかりやすい表現を使って、書きましょう。

Who is she? Who is he? クイズ

1st Class ( ) Name ( ) Name ( ) Name ( )  
 ヒント1 クイズに出る人・キャラクターが何かが伝えよう。

He is a cartoon and a TV character.

ヒント2 4文以上は書いてください。  
 (みんなのクイズ難しめからもっとたくさんヒント書いてください)

He is an elementary school student.  
 He rides a skateboard very well.  
 He doesn't sing well.  
 He loves Mami Kato.

問題 彼・彼女はだれでしょう?  
 Who is he?

答えは、書かないでね。

小学生への  
Who am I?  
クイズ



中学校での1年間の学習の歩みを振り返り達成感を感じると共に、小学校6年生に1年後の姿を見せ英語学習への期待感を持たせることができたと思われる。小学生・中学生ともに、外国語科学習に対する意欲の高まりが感じられる有意義な時間となったと思われる。

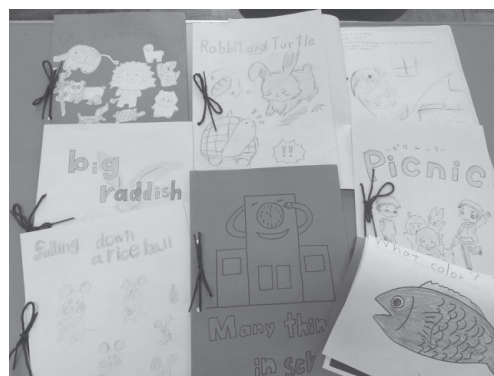
## ② 教材や作品を通しての小中連携

中学校1年においては、小学校で使用した教材や教具をできるだけ英語科の授業で活用し、慣れ親しんだ言語材料を想起させ、中学校での言語活動に生かせるようにしてきた。校区の2校の小学校で、地域や生徒の映像や写真を使ったビデオ教材を作成し活用しているが、その教材を中学校英語科においても授業導入時に重点的に活用してきた。生徒は、懐かしい映像を視聴しながら、小学校での言語材料を反復学習することができたようである。

また、小中それぞれの児童・生徒の作品の交流も実施してきた。中学校1年に特設した単元「Welcome to Naruto! 鳴門の観光マップをつくろう」は、小学校6年の「地域のよさをつたえるおすすめパンフレットを作ろう」と関連している。小中それぞれの作品を交換し見せあうことにより、児童・生徒それぞれが、自分たちの学びが繋がることを意識することができたと思われる。

中学校2年に導入したオリジナルプログラム「英語で絵本づくり」では、グループで小学生を対象とした英語での絵本づくりに挑戦した。生徒は、1学期に「英語で4コマ漫画」に取り組んでいるため、英語でのストーリーづくりに興味・関心を持っていた。生徒たちは、グループで協力して、小学校中学年から高学年向けの内容を思案した(資料9)。そして、対象となる学年の児童にとってできるだけ分かりやすい表現になるように工夫しながら、英文づくりに取り組んだ。作品は、小中外国語科コーディネーター(平成29年度3月末まで)によって、小学生に届けられた。

資料9【小学生のためにストーリーを考えて作成したオリジナル英語絵本】



## 6. 研究の成果と課題

### (1) 成果

スタートカリキュラムでは、特に、これまで音声から文字への学習に円滑な接続がなされていなかったという反省に基づき、よりきめ細やかな文字指導を心がけた。そして、スタートカリキュラム全体を通じて、外国語科と中学校英語科の学習をつなげる帯活動を実施した。実施した帯活動としては、アルファベットの再認識を目的とした、A.B.C. 手遊びソング、大文字小文字カルタ、小文字さがし、アルファベット小文字体操などが

挙げられる。生徒の感想からも、「英語の授業の最初に、小学校でしたアルファベット手遊びソングを歌って、とても懐かしかったです。他の小学校の友達とも楽しく活動できました。」と肯定的な意見が聞かれた。「体を使って小文字の形を覚えるのはとてもいいなあと感じました。」「アルファベットの小文字を書く時、中学校でも、一階建て・二階建て・地下一階と確認しながら(a, b, g など)書きました。でも、中学校では、正確に書くことがとても大切だと言われました。」などの意見が聞かれた。外国語科で慣れ親しんだ表現が盛り込まれている歌やチャンツ、絵カードを活用し、音声・リズム・視覚教材から、小学校で学んだ言語材料を想起することができる活動を展開したことも大変効果的であったと感じる。

また、音声から文字への学習の円滑な接続をめざして、フォニックスカルタや音読みの足し算による単語づくりなどの活動を帯学習として取り入れたことが、生徒の文字学習への抵抗感を払拭することに効果的であったことが、活動の様子や授業後の感想からうかがえた。

さらに、仲間同士での関わり合いを通じてお互いに学習意欲を高め合う場面を積極的に取り入れ、グループやペア活動を通じたインタラクションを大切にすることを継続したことが、全体として生徒の英語学習への不安を軽減し、意欲向上へと繋がったことが、毎時の活動の様子や生徒の振り返りカードの感想からうかがえた。また、外国語科で生徒が一度取り込んだ表現や語彙を、スタートカリキュラムでもう一度取り出し繰り返し活用させることにより、生徒は自信を持ってそれらの表現を使えるようになるという強みを感じた。今後も既習事項を反復活用しながら理解を深め、表現を広げていく学習場面を展開するべきであると感じた。

## (2) 課題

カリキュラムがスタートした時点で、まだアルファベットの名前読みが十分習得できていない生徒にとっては、アルファベットの音読みが加わるのが負担となったことが、生徒の授業中の様子や授業後の感想からうかがえた。今後は、中学校英語スタート時点で見られる個人差にどのように対応し、音声から文字へのきめ細やかな指導を行っていくかということが課題である。

## 引用文献

文部科学省(2017) 『小学校学習指導要領解説外国語編』

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387017\\_11\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387017_11_1.pdf)  
(平成 29 年 12 月 22 日参照)

文部科学省(2017) 『中学校学習指導要領』

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf)  
(平成 29 年 12 月 22 日参照)

文部科学省(2017) 『中学校学習指導要領解説外国語編』

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387018\\_10\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387018_10_1.pdf)  
(平成 29 年 12 月 22 日参照)